

ハクサンチドリ

Orchis aristata

ラン科



ハクサンチドリの花。紅紫色が多いが白い花びらがあることも

名前の由来

石川・岐阜県境にある白山で発見されたことに由来する。チドリ（千鳥）の由来は、花の形をチドリが翼を広げて飛ぶ姿に見立てたもの。漢字名：白山千鳥

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ユウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
ワシントンカ
鳥類

形態的特徴

高さ20~40cmで茎は直立する。葉は数枚が茎上からまばらに互生し、細長い楕円形で少し厚みと光沢がある。花は紅紫色で5枚の先が尖った花びら（花弁）と、先が3回ほどの切れ目が入る唇弁という下方にのびる1枚の花びら（花弁）を持ち、後方に長細くのびる距（きょ）をもつ。多数の

花が茎上部（苞葉の腋）に密接してついて穂状になり、先の尖った花びらが、トゲが多数突き出ているように見える。ときに白い花をもつものもある。

類似種と見分け方：ウズラバハクサンチドリ。高山に生育し、葉の上面に紅紫色の斑点ができる。

生育環境・分布

平地～山地の湿った林や湿地、草原に生育する。

分布：国外分布は、千島・樺太・朝鮮・カムチャツカ・アリューシャン・アラスカ。

国内分布は、本州中部以北から北海道。

北海道内分布は、全道。亜高山～高山帯に生育するが、道東・道北では平地でも見られる。

十勝地方では、平地～山地の湿った林や湿地、草原に生育

する。愛国付近より上流の札内川河畔林や士幌高原など十勝地方の原生花園でも見られる。



ハクサンチドリ

生活史

開花時期：6~7月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■広義のハクサンチドリ属は、塊根の形状とずい柱の構造でいくつの属に分けられる。塊根が掌状に分裂し、粘着体が1個の小胞体に包まれるものが狭義のハクサンチドリ属で、ユーラシア大陸の温帯を中心に約30種が分布し、日本にはハクサンチドリ一種だけである。また塊根が楕円形で、

粘着体が2個の小胞体に包まれるものが広義のハクサンチドリ属の中のウチョウラン属で、東アジアの温帯地域で10種、日本では3種がある。

■ラン科には和名に「チドリ」のついた植物は26種類もある。

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「ラン科ハクサンチドリ 週間朝日百科 植物の世界104」井上健 朝日新聞社 1996